

日仏シンポジウム「植民地主義の過去、未来のための記憶」

2007年12月8日～9日・日仏会館1階ホール（入場自由／日仏同時通訳付）

主催：日仏会館

協力：東京日仏学院、新潟大学、中央大学

後援：朝日新聞社

第1日 12月8日（土）13時～18時

13:00 開会 フランソワーズ・サバン（日仏会館）

13:05～15:15 セッション1「なぜいま植民地主義の過去なのか」

樋口陽一（日本学士院・日仏会館）「法・歴史・記憶」

ジル・マンズロン（人権リーグ）「マリアンヌと植民地—フランス共和国の植民地化事業と思想」

山室信一（京都大学）「〈国民帝国〉日本の発現と植民地主義の断層」

司会・平野千果子（武蔵大学）

15:15～15:45 コーヒーブレイク

15:45～18:00 セッション2「日仏のアジア進出・アジア支配」

ピエール・プロシュエ（パリ第7大学）「仏領インドシナにおける文化帝国主義と〈武器の逆用〉」

リオネル・バビッチ（日仏会館）「日韓併合と植民地統治システム」

小林英夫（早稲田大学）「満州国と大東亜共栄圏」

司会・坪井善明（早稲田大学）

第2日 12月9日（日）13時～18時

13:00～15:15 セッション3「記憶の戦争—植民地主義とナショナリズム」

バンジャマン・ストラ（フランス国立東洋言語文化研究院）「フランスとアルジェリア、記憶の戦争をどう越えるか」

高橋哲哉（東京大学）「靖国—戦争責任論の限界」

小熊英二（慶應義塾大学）「日本の植民地主義とナショナリズムの特徴」

司会・アルノ・ナンタ（フランス国立科学研究センター）

15:15～15:45 コーヒーブレイク

15:45～18:00 セッション4「歴史の書き方と記憶の伝達」

フランソワーズ・ヴェルジェス（ロンドン大学）「奴隷制と植民地主義の遺産：フランスにおけるカラーライン、人種と市民権」

吉見義明（中央大学）「〈従軍慰安婦〉問題：歴史的事実と論争」

君島和彦（東京学芸大学）「『日韓交流の歴史』の歴史認識」

司会・廣田 功（新潟大学・日仏会館）

18:00 閉会 三浦信孝（中央大学・日仏会館）

日仏会館フランス事務所

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25 / TEL 03-5421-7641 / FAX 03-5421-7651 / WEB <http://www.mfj.gr.jp/>